

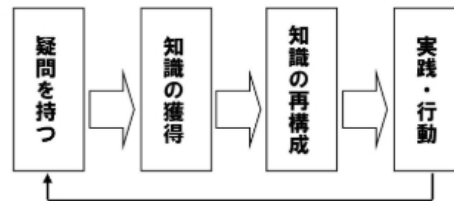
資料室


[HOME](#) | [資料室](#) | [一般教養](#) | [自己啓発](#) | [問題意識の強化を図る](#)
[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[社会保障](#)[労使トラブル法律相談Q&A](#)[労働関係法](#)[経営全般](#)[人間関係とコミュニケーション](#)[ライフプラン](#)[男女共同参画](#)[公務員関係法](#)[日朝の歴史](#)[7つの習慣](#)[中東の歴史](#)[ボランティア活動](#)[環境活動](#)[社会貢献活動](#)[自己啓発](#)[生涯学習](#)[外交・防衛問題](#)[資本論](#)

問題意識の強化を図る

問題意識を持つことは、考えることの第一歩です。自分の頭で「考える能力」を身に付けることです。

人間の知的成長は、



このようなサイクルで、ラセン階段を昇るように、人間は知的成長を図っているとされます。したがって、

- 「何故だろう」「どうしてだろう」「どうすれば良いのだろうか」と、常に自分に問いかけることです。
“私は、どんな人間になりたいのだろうか”と問いかけることです。
その問いかけは、「理想と目標」を与えてくれます。
そして、「自分はこうになりたい」という欲求が芽生えます。
そうすると、「自己啓発の姿勢」が出てきます。それを常に自覚することとなります。
- 労働運動にも言えます。
我々の組合はどんな運動をしようとしているのだろうか。どんな職場に、どんな社会に、…というように、どんどん疑問を出し、理想を語ることです。
組合員に呼びかけられるものを持つことです。しかしこれは、「学習」「勉強」なくてはできません。学習や勉強は、さらに次の問題意識を生み、社会や職場や組合の問題点を発見する力を養うことになります。
ですから、「何故だろう」と問題意識を持つことは、考えることの第一歩であり、知らないことを知ることに繋がります。知らないことを知ることで、学習が深まり、さらに問題意識が生まれてくるというサイクルで、より高く、より広く、自己啓発することになっていきます。
このように、知識を増やすことは、知らない問題が増えることでもあり、その解決へさらに知的欲求が高まることになります。

「問題意識を持つ、疑問を持つ」ことが知的成長の出発点です。

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

>>> [一覧へ戻る](#)

[教育カリキュラム](#)

[日本国憲法](#)

[傾聴](#)

[語り部スキル](#)

[▶ キーワード検索はこちら](#)

[▶ サイトマップ](#) [▶ このサイトについて](#) [▶ 個人情報保護の取組みについて](#)

[▶ ページTOPへ](#)

[TOP page](#)

[資料室](#)

[イベント情報](#)

[講師を探す](#)

[Worker's広場](#)

[関連リンク](#)

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.